

学会便り

令和元年度第1回参与会報告 First meeting of Advisory Committee report

穴見 敏也
Toshiya ANAMI

令和元年7月24日に本年度第1回の参与会を開催した。参与会は、経済産業省製造産業局金属課および軽金属のユーザー企業からなる参与の皆様に参加頂き、ニーズの把握や学会側からの情報発信を目的としており、今回は、参与の皆様よりご要望の多かったマテリアルズ・インフォマティクスをテーマとした講演、および素材メーカーの開発取り組み紹介の講演を企画した。

はじめに、「マテリアルズ・インフォマティクスに関する最新動向」と題し、広島大学大学院工学研究科の杉尾 健次郎 准教授にご講演頂いた。マテリアルズ・インフォマティクスは材料科学分野における第4のパラダイムとして注目をされていること、データ駆動型の材料開発を可能とするために「プロセス-組織-性質-パフォーマンス」の関係性を見つけ出すことがゴールであることが紹介された。JSTでのプロジェクトでも、チタン合金や高分子材料などでマテリアルズインテグレーションシステムの開発が進められており注目度の高い取り組みである。本講演では、マテリアルズ・インフォマティクスが次世代の研究開発手法となる可能性を秘めていることや、具体的にどうすればよいかについて、先生のご研究例を元に、アルミニウム合金を対象とした事例を最新データとともに紹介頂いた。そして、軽金属材料に特化したソフトウェア群の開発が必要であり、それを議論するため研究部会の立ち上げを検討したい旨のご提案があった。質疑では、マテリアルズ・インフォマティクスの得手不得手やデータの取り扱いに関する質問等がなされた。また、今後のプラットフォーム作成が重要であろうとの示唆も頂いた。

次に素材メーカーの開発取り組み事例の紹介として、「異次元の素材メーカーを目指して」と題し、日本軽金属株式会社商品化事業化戦略プロジェクト室の山口 仁 室長にご講演頂いた。その場限りの情報ということで配布資料はなかったが、アルミニウム素材メーカーの開発取り組みについて日本軽金属の横串活動を具体的な商品例を示しながら紹介いただいた。質疑では、横串メンバーの評価をどうしているか、モチベーション維持の方法などについて質問がなされた。また、フェーズ管理はブレーキがあるもののアクセル機能が少ないため、開発のある段階までは管理を緩やかに進めている



図1 杉尾先生ご講演

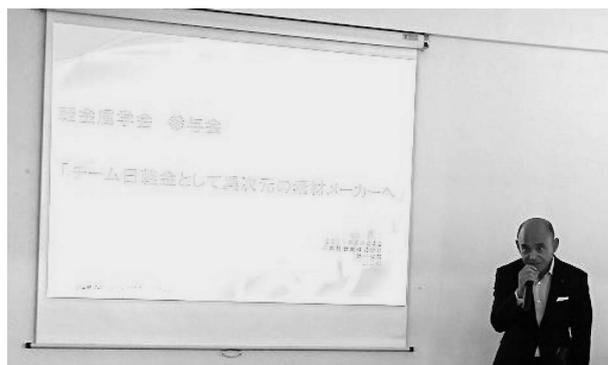


図2 山口様ご講演

旨の紹介もあった。

最後に、資料を用いて2018年度の軽金属学会活動の紹介および会員動向を報告した。

今回、いずれも非常に興味深い講演内容であったことから各講演で質疑、議論が非常に活発に行われ、参加者にとっても貴重な情報交換の場が提供できたものと思われる。なお、都合により総合討議の時間が不足したことから、次回以降は参与会活動全体に関しても十分な意見交換ができる時間を確保したい。令和元年度第2回の参与会は11月27日(水)を予定している。